演習問題1｜DXの3段階の理解と具体例

問題

DXの3段階（デジタイゼーション→デジタライゼーション→デジタルトランスフォーメーション）の違いを説明し、飲食現場での具体例を各1つ挙げてください。（120〜180字）

記述スペース

（ここに回答を記述してください）

記述の視点・ヒント

1.デジタイゼーション

「置き換え」の段階
例：紙の伝票→タブレット注文

2.デジタライゼーション

「効率化」の段階
例：予約と厨房の連携で仕込み計算

3.DX（変革）

「体験変革」の段階
例：AI分析で個別化コース提案

※単一の視点で回答し、専門用語は平易な表現に言い換えてください。

第1講

演習問題1｜回答例と解説

解答編

模範回答例

デジタイゼーションは紙の食券を券売機に変える「置き換え」です。

デジタライゼーションは予約データと厨房を連携し仕込み量を自動計算する「効率化」です。

DXは顧客嗜好をAIで分析し、その人だけの特別コースを提案する「体験変革」で、価格競争からの脱却を狙います。

（約140字）

解説・重要ポイント

- **3段階の進化：**単なる「置き換え」から「効率化」、そして最終的な「体験変革」へとステップアップする流れを理解しましょう。
- **守りと攻め：**前半2つは守り（コスト削減）、DXは攻め（売上・価値向上）であることを明確に区別します。
- **競争優位：**DXの最終目的は、他社には真似できない独自の価値を生み出すことです。

評価基準

評価項目	配点
3段階の違い 置き換え・効率化・変革の区別	30
具体例の適切さ 飲食現場の例が各段階にあるか	30
守りと攻めの理解 目的の違いを捉えているか	20
文字数・表現 150〜200字、平易な表現	20

合計100点

問題

観光・飲食で深刻な「人手不足」と「商品力赤字」が現場にもたらす影響を説明してください。（120～180字）

記述スペース

（ここに回答を記述してください）

記述の視点・ヒント

1.人手不足の影響
欠員率高止まり・教育不足
→個別対応・多言語化の困難

2.商品力赤字の影響
横並びメニュー・差別化困難
→価格競争で利益低下

3.現場への結果
特別感の欠如・機会損失
→改善や新提案の停滞

※単一の視点で回答し、専門用語は平易な表現に言い換えてください。

第1講

演習問題2｜回答例と解説

解答編

模範回答例

人手不足で教育に手が回らず、個別対応や多言語対応が難しくなり、
サービス品質が下がります。

商品力赤字は刺身・天ぷらなど横並びで差別化できず、
値下げ合戦で利益が出にくい状態です。

結果として現場の疲弊と機会損失が起こり、
改善や新提案に時間が割けない悪循環に陥ります。

（約140字）

解説・重要ポイント

- **人手不足の連鎖：**単に人がいないだけでなく、
  教育不足やサービス低下へ波及することを理解しましょう。
- **コモディティ化の罠：**「どこでも同じ」メニューは価格競争を招き、
  利益を圧迫する最大の要因です。
- **体験価値の低下：**忙しさと利益不足が重なると、
  お客様への「特別感」を提供できなくなります。

評価基準

評価項目	配点
課題の把握 人手不足・商品力赤字の両方を指摘	40
影響の具体性 サービス低下・利益圧迫への言及	30
因果の明確さ なぜ現場が疲弊するか論理的か	20
文字数・表現 150〜200字以内	10

合計100点

演習問題3｜守りのDXと攻めのDX

問題

守りのDX（業務自動化）と攻めのDX（体験再設計）の違いを、目的と具体例を添えて説明してください。
（120〜180字）

記述スペース

（ここに回答を記述してください）

記述の視点・ヒント

1.守りのDX（自動化）

目的：時間を生む
例：予約・在庫管理・翻訳のAI化

2.攻めのDX（再設計）

目的：感動を生む
例：データ分析→新レシピ開発

3.両輪で回す

守りで生まれた時間を
攻めの創造・接客に充てる

※単一の視点で回答し、専門用語は平易な表現に言い換えてください。

第1講

演習問題3｜回答例と解説

解答編

模範回答例

守りのDXは予約・在庫・翻訳など定型作業をAIに任せ、
時間を捻出することです。

攻めのDXは口コミや嗜好データから本当に求める体験を設計し、
生成AIで地域食材の新レシピを創ることです。

この両輪で、人間は「おもてなし」と「創造」に集中し、
高付加価値・高単価へシフトすることを目指します。

（約150字）

解説・重要ポイント

- **目的の違い：**守りは「時間の創出」、攻めは「価値の創出」という明確な目的の違いがあります。
- **データから体験へ：**攻めのDXでは、データ分析（過去）から新しい体験（未来）をデザインする流れが重要です。
- **両輪の必要性：**どちらか一方ではなく、守りで守りを固めつつ、攻めでファンを作る両輪が必要です。

評価基準

評価項目	配点
目的の明確さ 守り・攻めそれぞれの目的	35
具体例の提示 各DXの具体的な施策例	35
両者の対比 役割分担が理解できているか	20
文字数・表現 150〜200字、簡潔な表現	10

合計100点

第2講

演習問題1｜生成AIの仕組み

食×AIクリエーション

問題

生成AIがどのように文章を作るかを、検索エンジンとの違いに触れつつ説明してください。（100〜150字）

記述スペース

（ここに回答を記述してください）

記述の視点・ヒント

1.確率予測マシン
文脈から「次に来る言葉」を確率的に予測して
つなげています

2.検索との違い
正解を探すのではなく、学習データから
「もっともらしい」文章を生成します

3.苦手なこと
正確な事実確認や計算は苦手
（ハルシネーションのリスク）

※単一の視点で回答し、専門用語は平易な表現に言い換えてください。

第2講

演習問題1｜回答例と解説

解答編

模範回答例

生成AIは検索のように正解を探すのではなく、
文脈から「次に来るもっともらしい言葉」を確率で予測して文章をつなぎます。

大量のテキストを学習し要約・創造は得意ですが、
事実の厳密性は保証しません。

ゆえに人が常に検証し、用途に応じて使い分ける必要があります。

（約130字）

解説・重要ポイント

- **確率予測マシン：**正解のDBを持っているわけではなく、
言葉の「確率」を計算しているに過ぎない点を理解しましょう。
- **得意・不得意：**創造的なアイデア出しは得意ですが、
正確な事実確認や計算は苦手な場合があります。
- **人の役割：**AIの出力を鵜呑みにせず、
必ず人間がファクトチェックを行うことが不可欠です。

評価基準

評価項目	配点
仕組みの説明 確率予測であることを記述	40
違いの明確化 検索エンジンとの対比	30
リスク理解 事実保証がない点の指摘	20
文字数・表現 150〜200字以内	10

合計100点

問題

テキスト生成・画像生成・翻訳の3つのAIを、それぞれの役割と飲食での具体例とともに説明してください。
（120〜180字）

記述スペース

（ここに回答を記述してください）

記述の視点・ヒント

テキスト生成AI
役割：副料理長
例：新メニューのアイデア出し

画像生成AI
役割：フードカメラマン
例：試作前の完成予想図作成

翻訳AI
役割：多言語コンシェルジュ
例：物語付きで魅力を伝えます

※単一の視点で回答し、専門用語は平易な表現に言い換えてください。

第2講

演習問題2｜回答例と解説

解答編

模範回答例

テキスト生成は副料理長のように条件から新レシピ案を量産します。

画像生成は湯気や照りを演出し、試作前に完成予想図を示します。

翻訳は直訳を避け、食材や背景の物語を添えて安心と魅力を伝えます。

3つを組み合わせると、注文率と満足度の両方を高められます。

（130字）

解説・重要ポイント

- **役割の明確化：**各AIの役割を「副料理長」「カメラマン」「コンシェルジュ」のように人間的な役割に置き換えて理解します。
- **具体例の提示：**「湯気や照り」「物語を添える」など、どのように使うかを具体的にイメージできています。
- **統合効果：**単体で使うだけでなく、3つを組み合わせることで相乗効果（注文率・満足度UP）が生まれる点に触れています。

評価基準

評価項目	配点
3つの役割説明 テキスト・画像・翻訳の各役割	35
具体例の明確さ 現場での活用イメージがあるか	35
統合の示唆 組み合わせによる効果への言及	20
文字数・表現 150〜200字以内	10

合計100点

演習問題3｜ハルシネーションのリスク

問題

ハルシネーションによる誤情報（アレルギー/宗教/地域特産など）のリスクと、
現場で取るべき対策を説明してください。（120〜180字）

記述スペース

（ここに回答を記述してください）

記述の視点・ヒント

1.リスクの本質
命に関わるアレルギーや宗教的禁忌でもAIは平気で嘘をつきます

2.現場の鉄則
必ず原資料（原材料表など）で裏取り・確認を行います

3.責任の所在
最終責任はAIではなく、提供する「人」にあります

※単一の視点で回答し、専門用語は平易な表現に言い換えてください。

第2講

演習問題3｜回答例と解説

解答編

模範回答例

AIはもっともらしい嘘を平気で出すため、
アレルギーやハラール表示は重大事故に直結します。

必ず原材料票やレシピに立ち戻り、人が複数名でクロスチェックを行ってください。
曖昧な表現を避け、根拠のある確実な情報のみを掲載します。

最終責任はあくまで提供者側にあることを徹底しましょう。

（約140字）

解説・重要ポイント

- **重大リスクの認識：**AIの嘘（ハルシネーション）が
アレルギー事故などの命に関わるリスクになることを理解します。
- **人の最終確認：**AI任せにせず、
必ず「人」が原資料に基づいて事実確認を行うワークフローが不可欠です。
- **責任の所在：**何かあった時の責任はAIではなく、
それを提供した店舗・人にあることを自覚しましょう。

評価基準

評価項目	配点
リスク説明 重大事故の可能性への言及	40
対策の実行性 クロスチェック等の具体策	30
責任の明確化 最終責任は人にあるという視点	20
文字数・表現 150〜200字、簡潔な表現	10

合計100点

第3講 演習問題1｜マクロ/ミクロデータの違い

問題

観光で使うマクロデータとミクロデータの違いを説明し、それぞれの活用例を1つずつ挙げてください。
（100～150字）

記述スペース

（ここに回答を記述してください）

記述の視点・ヒント

1.マクロデータ
「世の中の流れ」
例：宿泊旅行統計、インバウンド動向
役割：ターゲット選定（誰に？）

2.ミクロデータ
「目の前の声」
例：OTA口コミ、SNS投稿
役割：改善点の特定（何を？）

3.データの使い分け
マクロで戦略（方向性）を決め、
ミクロで戦術（具体策）を練ります

※単一の視点で回答し、専門用語は平易な表現に言い換えてください。

第3講

演習問題1｜回答例と解説

解答編

模範回答例

マクロは世の中の流れで、宿泊統計や訪日消費動向などです。
誰に向けるか（例：欧米豪増→ヴィーガン対応）を決める指針です。

ミクロは自店の口コミやSNS投稿で、何を改善するか
（例：朝食のパンが冷たい→提供順や機器見直し）を特定する材料と
なります。

（約130字）

解説・重要ポイント

- **マクロとミクロの役割分担：**「誰に売るか（市場選定）」にはマクロを、「何を改善するか（品質向上）」にはミクロを使います。
- **具体的なデータソース：**政府統計（マクロ）と口コミサイト（ミクロ）の違いを明確に記述しましょう。
- **意思決定への接続：**データを集めるだけでなく、具体的なアクション（ヴィーガン対応、機器見直し等）につなげることが重要です。

評価基準

評価項目	配点
マクロ/ミクロの定義 それぞれの意味を正確に説明	35
活用例の具体性 観光・飲食の事例を挙げているか	35
役割分担の理解 誰に/何の使い分けができているか	20
文字数・表現 150〜200字、論理的な構成	10

合計100点

演習問題2｜レビュー分析の基本

問題

キーワード抽出（テキストマイニング）とポジネガ分析の違いを説明し、現場での使い分けを述べてください。
（120〜180字）

記述スペース

（ここに回答を記述してください）

記述の視点・ヒント

1.キーワード抽出
「何が語られているか」
例：頻出語を可視化（論点の把握）

2.ポジネガ分析
「どう語られているか」
例：感情の数値化（強み・弱み特定）

3.現場での使い分け
まず全体像を把握し、次に詳細な評価を確認
文脈の重要性も意識します

※単一の視点で回答し、専門用語は平易な表現に言い換えてください。

第3講

演習問題2｜回答例と解説

解答編

模範回答例

キーワード抽出は大量の口コミから頻出語を可視化し、
論点を把握する手法です。

ポジネガ分析は語られ方の感情を数値化し、強み弱みを特定する手法です。

まず何が語られているかを掴み、次に褒められているか苦情かを確認します。
ターゲット別に見分けると改善点がより明確になります。

（140字）

解説・重要ポイント

- **役割の違い：**キーワード抽出で「論点（話題）」を把握し、
  ポジネガ分析で「評価（感情）」を判定します。
- **分析の順序：**まず全体像（頻出語）を見てから、
  詳細（感情の方向性）へと掘り下げるのが鉄則です。
- **ターゲット分析：**全体平均だけでなく、
  年代や性別などの属性別に見ることで真因が見えてきます。

評価基準

評価項目	配点
違いの説明 抽出と感情分析の役割区分	40
手順の明確さ 論点把握→感情確認の流れ	30
活用の具体性 ターゲット別分析への言及など	20
文字数・表現 150〜200字、論理的な構成	10

合計100点

演習問題3｜データで改善する

問題

「夕食は豪華だが量が多い」という声が多い場合、どのようにメニューを改善するか、具体策と期待効果を述べてください。（120～180字）

記述スペース

（ここに回答を記述してください）

記述の視点・ヒント

1.引き算の勇気

量を20%減らして質を高める
無理なく完食できる量へ

2.デザートの質向上

浮いた原価をデザートへ
最後の印象（ピーク）を高める

3.期待される効果

満足度向上、食品ロス削減
原価率の適正化

※単一の視点で回答し、専門用語は平易な表現に言い換えてください。

第3講

演習問題3｜回答例と解説

解答編

模範回答例

量を20%減らし、浮いた原価で季節のフルーツを使ったデザートを強化します。

提供順を見直し、最後に軽やかな満足感のピークを作ります。

シニア層の食べ切れない不満が解消し、満足度向上と食品ロス削減、
原価率の適正化が同時に期待できます。

（約120字）

解説・重要ポイント

- **引き算の設計：**「量」ではなく「体験の質」を重視し、勇気を持って減らす決断が重要です。
- **原価の再配分：**減らした分のコストを、顧客満足度の高いデザートなどの質向上に回します。
- **複合効果：**顧客満足、ロス削減、原価適正化という「三方よし」の結果を目指します。

評価基準

評価項目	配点
具体策 量の調整と質の向上	40
期待効果 満足度・ロス・原価への言及	30
一貫性 課題と解決策の整合性	20
文字数・表現 150〜200字、平易な表現	10

合計100点

演習問題1｜食のバリアフリー基礎

問題

ヴィーガン・ハラール・アレルギーの違いと、和食で特に注意すべき「見えない食材」について説明してください。
（100〜150字）

記述スペース

（ここに回答を記述してください）

記述の視点・ヒント

1.定義の違い

思想（ヴィーガン）、宗教（ハラール）、
体質・命（アレルギー）の違いを明確に。

2.見えない食材

出汁（カツオ）、みりん（アルコール）、
醤油（小麦）などの隠れた成分。

3.現場での対策

調理器具の使い分け（コンタミ防止）や、
正確な情報開示の重要性。

※単一の視点で回答し、専門用語は平易な表現に言い換えてください。

第4講

演習問題1｜回答例と解説

解答編

模範回答例

ヴィーガンは動物性不使用、ハラールは豚とアルコール厳禁、
アレルギーは特定成分で命に関わります。

和食は鰹出汁やみりん、醤油の小麦など見えない食材が多いです。

原材料表示と調理器具の使い分けを徹底し、
安心を前提にして初めて「美味しい」が成り立ちます。

（約130字）

解説・重要ポイント

- **3者の定義：**ヴィーガン（思想）、ハラール（宗教）、アレルギー（体質）の違いを正確に理解しましょう。
- **見えない食材：**出汁、調味料、揚げ油などに隠れたNG食材（動物性、アルコール、小麦など）に注意が必要です。
- **安心の設計：**美味しさ以前に、「食べても安全か」という心理的安全性が最優先事項です。

評価基準

評価項目	配点
定義の正確さ 3つの違いを正しく説明	35
注意点の具体性 見えない食材や調理器具への言及	35
安全重視の姿勢 安心が土台である理解	20
文字数・表現 150〜200字、簡潔な表現	10

合計100点

演習問題2｜翻訳ミスの回避

問題

機械直訳が招く誤解の例を挙げ、料理の魅力が伝わる翻訳のコツを説明してください。（150～230字）

記述スペース

（ここに回答を記述してください）

記述の視点・ヒント

1.文脈と説明付与

単語の置き換えではなく、食材や背景の物語を補足します

例：親子丼に家族の絆の説明

2.直訳回避

恐怖や誤解を与える表現を避けます

例：Hormone（医学用語）→Offal

3.文化的配慮

食欲をそそる表現や安心感を与えます

例：山菜→MountainVegetable（味気ない）

※単一の視点で回答し、専門用語は平易な表現に言い換えてください。

第4講

演習問題2｜回答例と解説

解答編

模範回答例

親子丼直訳の“Parent & Child Bowl”は残酷な印象を与える恐れがあります。

素材と文化背景を添えた“Chicken and Egg Rice Bowl
– Symbolizing family bond”のように、物語と食べ方を補足します。

ホルモンは“Hormone”でなく“Offal”など文脈に応じ意訳します。

（約170字）

解説・重要ポイント

- **直訳のリスク：**「親子丼」や「ホルモン」のように、
直訳するとグロテスクに聞こえる単語は絶対に避けるべきです。
- **説明の付与：**単語の羅列だけでなく、どういう料理か、どんな意味があるかを
短文で補足します。
- **文化ニュアンス：**その国の文化で受け入れられる表現か、
ネイティブ視点でのチェックが不可欠です。

評価基準

評価項目	配点
事例提示 直訳による失敗例を挙げているか	40
コツの明確化 補足や意訳の重要性を説明しているか	30
表現の適切さ 文化背景への配慮があるか	20
文字数・表現 150〜200字、平易な表現	10

合計100点

第4講

演習問題3｜AI×人のワークフロー

食×AIクリエーション

問題

多言語メニュー作成でのAIと人の役割分担を、工程ごとに説明してください。（120～180字）

記述スペース

（ここに回答を記述してください）

記述の視点・ヒント

1.AIの役割（スピード）
下書き作成、翻訳素案の出力
アレルゲン情報の一次抽出

2.人の役割（責任）
原材料との突合による安全確認
食欲をそそる表現への調整

3.文化的な配慮
不適切な表現の修正
食文化に合わせたニュアンス監修

※単一の視点で回答し、専門用語は平易な表現に言い換えてください。

第4講

演習問題3｜回答例と解説

解答編

模範回答例

AIが多言語説明とアレルゲン候補を一括出力します。

人が原材料と突合し安全性を最終確認し、
表現を食欲が湧く言い回しに調整します。

必要に応じネイティブがニュアンスを監修します。
AIは速度、人は責任と品質で役割分担し、事故ゼロと魅力発信を両立します。
（約140字）

解説・重要ポイント

- **速度と責任の分担：**AIは膨大な作業を瞬時に処理し、人は最終的な安全と品質の責任を負うという役割分担が鍵です。
- **二重チェック体制：**AIの出力結果を人間が必ず確認（原材料との突合）することで、ハルシネーションによるリスクを防ぎます。
- **品質と安全の両立：**単なる翻訳ではなく、食欲をそそる表現への調整と、アレルゲン情報の正確性を両立させることがプロの仕事です。

評価基準

評価項目	配点
工程の明確さ 出力→確認→調整の流れ	40
役割分担の理解 AI（速度）と人（責任）の違い	30
安全配慮 事故防止の視点が含まれるか	20
文字数・表現 150〜200字、平易な表現	10

合計100点

演習問題1｜ブランド化の方程式

問題

素材×物語×見せ方=価値を説明し、各要素の具体例を挙げてください。（120～180字）

記述スペース

（ここに回答を記述してください）

記述の視点・ヒント

1.Material（素材）

地域の宝である食材
例：地魚、在来野菜、未利用魚

2.Story（物語）

背景にある文脈
例：産地、生産者の想い、歴史

3.Design（見せ方）

価値を伝える演出
例：器、盛り付け、シズル写真

※単一の視点で回答し、専門用語は平易な表現に言い換えてください。

第5講

演習問題1｜回答例と解説

解答編

模範回答例

価値は良い素材だけでは伝わりません。

地魚や在来野菜に、生産者や風土の物語を添え、器や盛付、写真で魅力を最大化します。

例えば未利用魚を『寒流育ちの旨味白身』と名付け、
石のプレートと断面の見せ方で格上げ。
素材×物語×見せ方の掛け算で単価を上げます。

（約130字）

解説・重要ポイント

- **掛け算の方程式：**「素材」だけでは価値は1倍。「物語」と「見せ方」を掛け合わせることで、価値は数倍に跳ね上がります。
- **情緒的価値の付与：**単なる「魚」ではなく、「寒流育ちの物語」を加えることで、お客様の感情に訴えかけます。
- **デザインの力：**器、盛り付け、写真などの「見せ方（デザイン）」を変えるだけで、同じ素材でも高級感を演出できます。

評価基準

評価項目	配点
式（3要素）の説明 素材・物語・見せ方の理解	35
具体例の明確さ 魚や野菜の例示があるか	35
一貫性と論理性 3要素が統合されているか	20
文字数・表現 150〜200字、平易な表現	10

合計100点

問題

横並びメニューから抜け出すための、シンプルで実行可能な3手を提案してください。（180〜270字）

記述スペース

（ここに回答を記述してください）

記述の視点・ヒント

ネーミング
単なる「刺身」ではなく、「港直送・朝どれ三点盛り」のように物語性を付与します。

ビジュアル
断面、湯気、照りを強調したシズル感のある写真で見せます。

提供順序
体験のピークを最後に設計するなど、提供フローで印象を変えます。

※単一の視点で回答し、専門用語は平易な表現に言い換えてください。

第5講 演習問題2｜回答例と解説

解答編

模範回答例

①名称を再設計します（例：「刺身三点」→「港直送・朝どれ三点盛り」）。

②「春の訪れを告げる鰆の藁焼き」など、旬の情緒と生産者のこだわりを添えた物語を一行加えます。

③画像は断面・湯気・照りを強調し、提供順で驚きのピークを最後に配置します。

これらの「引き算」と「演出」の積み重ねにより、同じ素材でも体験価値を劇的に高められます。

（約190字）

解説・重要ポイント

- **言い換えの効力：**単なる名称変更ではなく、顧客の期待値を上げる「再設計」が重要です。
- **物語の一行：**長文でなくても、産地や生産者の情報が価値を担保します。
- **見せ方と順序：**写真のシズル感と提供順の工夫で、同じ素材でも感動を生み出せます。

評価基準

評価項目	配点
施策の具体性 名称・物語・写真の改善案	40
実行可能性 明日からできる内容か	30
体験視点 顧客の感動を意識しているか	20
文字数・表現 150〜200字以内	10

合計100点

第5講 演習問題3｜AIで価値転換(リフレーミング)

問題

未利用魚や規格外野菜を「高付加価値メニュー」に変えるAI活用の流れを、入力→生成→人の仕上げの順で説明してください。（150～200字）

記述スペース

（ここに回答を記述してください）

記述の視点・ヒント

1.入力（条件設定）
素材の特徴、ターゲット、制約条件（原価など）

2.生成（AIの役割）
魅力的なネーミング、物語、シズル画像の作成

3.仕上げ（人の役割）
実際の試作、味の確認、現場トーンへの表現調整

※単一の視点で回答し、専門用語は平易な表現に言い換えてください。

第5講

演習問題3｜回答例と解説

解答編

模範回答例

入力で素材の特徴、想定客(例:欧米ファミリー)、価格や原価の制約を与えます。

生成でAIが魅力的な名前と物語、シズル画像を作成します。

人が試作して味と盛付を調整し、言葉を現場のトーンに整えます。

AIは副操縦士として速度を、人は目利きで品質を担保します。

(約130字)

解説・重要ポイント

- **入力設計：**ターゲットや制約を詳細に指定することで、より精度の高い提案を引き出せます。
- **生成アウトプット：**名前、物語、画像の3点セットを一気に生成し、イメージを具体化します。
- **人の最終仕上げ：**AIの提案をたたき台に、プロの感性と現場の文脈で完成度を高めます。

評価基準

評価項目	配点
手順の明確さ 入力→生成→仕上げの流れ	40
実用性 現場で使える内容になっているか	30
役割分担 AIと人の協働を理解しているか	20
文字数・表現 150〜200字、適切な表現	10

合計100点

演習問題1｜FRESHモデルの説明

問題

FRESH（Food/Region/Experience/Sustainability/Hospitality）の5要素を、
食×観光での具体例とともに簡潔に説明してください。（100〜150字）

記述スペース

（ここに回答を記述してください）

記述の視点・ヒント

Food
食の魅力・技術
例：AIレシピ開発

Region
地域資源・文化
例：歴史の物語化

Experience
顧客体験デザイン
例：感動の演出

Sustainability
地域共生・環境
例：ロス削減

Hospitality
人的サービス
例：多言語/安心

※単一の視点で回答し、専門用語は平易な表現に言い換えてください。

第6講

演習問題1｜回答例と解説

解答編

模範回答例

Fは地域食材をAIで魅力化、
Rは文化や歴史を理解し物語化、
Eは提供順や演出で感動設計、
Sは食品ロス削減や適正原価、
Hは多言語とアレルゲン表示
で安心を担保します。

5要素を一本の線で結ぶと、現場で再現性ある高付加価値体験へと繋がります。
（約125字）

解説・重要ポイント

- **各要素の要点：**Food,Region,Experience,Sustainability,Hospitalityの5つを正確に理解し、説明できることが基本です。
- **具体例の紐づけ：**AIレシピや多言語対応など、これまでの講義で学んだツールや手法と各要素を結びつけて考えましょう。
- **統合の意義：**バラバラの知識ではなく、これら全てが繋がって初めて「観光DX人材」としての価値が発揮されます。

評価基準

評価項目	配点
定義説明 FRESHの5要素を説明できている	35
具体例 食×観光での例が適切か	35
一体感 要素間のつながりへの言及	20
文字数・表現 150〜200字、簡潔さ	10

合計100点

問題

eポートフォリオの目的と必須コンテンツ（成果物・過程・学び）を説明し、採用側に伝わる構成案を示してください。（120〜180字）

記述スペース

（ここに回答を記述してください）

記述の視点・ヒント

1.目的
「実力の見える化」
採用側への証拠提示

2.必須コンテンツ
作品だけでなく「プロセス」
プロンプト設計や思考過程

3.構成案
Before/Afterの対比
数値で示す改善結果

※単一の視点で回答し、専門用語は平易な表現に言い換えてください。

第6講

演習問題2｜回答例と解説

解答編

模範回答例

目的は実力の見える化です。

成果物（画像・メニュー）に加え、プロンプトや検証の過程、
データで示す改善結果を並置します。

構成は「表紙→課題→AI活用→人の仕上げ→結果→学び」とします。

Before/Afterと数字で説得力が増し、
現場で使える人材であることが伝わります。

（約140字）

解説・重要ポイント

- **成果×過程：**「何を作ったか」だけでなく、「どう考え、どうAIを使ったか」というプロセスが評価の鍵です。
- **構成の型：**課題から結果までをストーリーとして提示し、読み手にわかりやすく伝えます。
- **数字とビジュアル：**具体的な数字やBefore/Afterの比較画像を用いることで、説得力を大幅に高めます。

評価基準

評価項目	配点
目的理解 実力の可視化という目的	35
必須要素 成果物・過程・結果の並置	35
構成の明確さ ストーリー性のある構成案	20
文字数・表現 150〜200字、平易な表現	10

合計100点

演習問題3｜学習ステップ（A/B/C）

問題

科目Aで学んだスキル（AI生成、データ分析、多言語対応）を統合し、FRESHモデルの視点から「ありきたりな地方料理」を「高付加価値な食体験」へと変えるための、あなた自身の具体的なアプローチを述べてください。（150～200字）

記述スペース

（ここに回答を記述してください）

記述の視点・ヒント

AIの活用（F･E）

地域の未利用食材をAIで新レシピ化し、視覚的な感動を設計する。

安心のデザイン（H）

多言語化と正確なアレルゲン提示で、来店前の不安を解消する。

人の役割（責任）

AIの速度と、人間の「目利き・ホスピタリティ」をどう組み合わせるか。

※単一の視点で回答し、専門用語は平易な表現に言い換えてください。

第6講

演習問題3｜回答例と解説

解答編

模範回答例

まず口コミ分析で顧客の潜在ニーズを特定し、AIを「副料理長」として地域の未利用魚を用いた新レシピと物語を生成します（F・R）。

次に画像生成でシズル感を演出し、多言語UXで「安心」を来店前に届けます（E・H）。

最終的には人間が味の責任を持ち、提供順などの演出で感動を最大化します。AIの速度と人の目利きを融合させ、持続可能な高単価モデルの構築を目指します。（198字）

解説・重要ポイント

科目Aの締めくくりとして、バラバラに学んだ「AI生成」「データ分析」「多言語対応」を、FRESHモデルという一つのフレームワークで統合する力を問います。

特に重要なのは、「AIに任せる部分」と「人間が責任を持つ部分」の切り分けです。

AIで効率化（F・R・E）し、浮いた時間で人間がホスピタリティ（H）を磨く、という「攻めのDX」の姿勢が示されているかが評価の鍵となります。ありきたりな地方料理を、デジタルと感性でどうリデザインするか、具体的なアクションプランを求めてください。

評価基準

評価項目	配点
FRESHモデルの適用 （F・R・E・S・H）を意識し、高付加価値化の根拠を示せているか	35
科目Aスキルの統合 AI生成、データ分析、多言語UXなど、学んだツールを具体的にどう使うかの記述があるか	35
実現可能性と独創性 現場で活用可能な具体的アプローチであり、独自の視点が含まれている	20
文字数・表現 150〜200字、平易な表現	10
合計100点	